

第6章 連立方程式モデル

1. りんごの需給モデルの例

りんごの需給をあらわすモデルとして、次のような連立方程式モデルを考える。

$$\text{需要関数: } Q_t = a + bP_t + eY_t + u_t$$

$$\text{供給関数: } Q_t = c + dP_t + fT_t + v_t$$

P_t : りんごの市場価格 (内生変数) (単位: 円)

Q_t : りんごの取引数量 (内生変数) (単位: 千個)

Y_t : 需要者の所得 (外生変数) (単位: 万円)

T_t : 1日平均日照時間 (外生変数) (単位: 時間)

このモデルを分析するために、次のプログラムを入力し、実行してみよう。(ファイル名は **2sls.tsp** としておく)

```
freq n;  
sml 1 8;  
load q;  
57 55 66 65 71 74 71 77;  
load p;  
78 96 87 98 104 105 110 113;  
load y;  
28 29 32 33 35 36 36 38;  
load t;  
7.0 4.1 7.2 5.4 5.8 6.7 5.0 6.3;  
2sls q c p y invr c y t;  
2sls q c p t invr c y t;  
end;
```